

心揺さぶられるエピソードを通して学ぶ!



患者・家族の安心につながる 看取りケアのプロセスと 声かけ・対話・聴く力

※講義時間:約4時間

ほんの少しの踏み込んだ質問で、
患者の思いを引き出し、
患者自身の言葉で答えを見つけていく!

大井裕子氏

聖ヨハネ会桜町病院 在宅診療部長

広島大学医学部 客員教授

日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック

臨床教授

録画配信

[視聴期間]

オンライン

約2週間

22年12/15(木)から
視聴可能になります。

※申込締切:23年2/9(木)

参加料
税込

一般 19,000円 会員 16,000円

※講義時間約4時間の録画配信セミナーです。
※PC/タブレット/スマートフォンなどインターネット環境が必要です。

プログラム



- 誰かを看取るということ
 - 看取りとは ●看取りの現場で自分は何ができるか
 - 残された家族の抱える苦しみとは ほか
- 残される家族の心の癒やしになる看取りの実現のために
 - 緩和ケアの考え方を取り入れる
 - 患者の苦痛を全人的苦痛としてとらえる ●患者と家族への声のかけ方
- 見通しを知る
 - 急変ではなく予測されたことがおこる ●予測される症状への対応
 - 急変時に求められる対応 ●死へのプロセス
 - 患者の死が差し迫った時に配慮すべきこと
- 人生の最終段階に食べることの意味
 - 食べられない理由～がんの場合と認知症の場合
 - 「うまく食べる」提案と「食を楽しむ」提案
 - 食べることをあきらめるまでのプロセスを共有する
- 声かけや対話から生まれる小さな希望を支える「聴く力」
 - 様々な場面で求められる「聴く力」
 - 死生観を持つこと、逃げないで聴くことの意味
- ケアする側が不安を抱えたまま看取りを行わないために
 - 事前に確認しておきたいこと ●ケアする人のケア
- 【事例で学ぶ】終末期の患者・家族への声かけ・対話
 - 先を見通して「今」というタイミングを逃さない声かけが生きる場面
 - 「もうあきらめている」と言われても生き生きと語れる可能性を奪わない
 - 「自分は何もできない」と思って見ている家族への声かけ
 - アルツハイマー型認知症があるがん患者が求める声かけ ほか

このセミナーはホームページからのみの受け付けとなります ▶ 日総研 170220 [検索](#)

関連雑誌

Web教材+季刊誌
(定期刊行物・会員制)

望む医療・ケアで人生の最終段階を支える!

エンド・オブ・ライフ ケア

End-of-Life Care

B5判 80頁 入会金 3,000円 年間購読料 18,900円(共に税込)

今後の予定

- 変わりゆく意思・意向を支援するACP[秋(10月)号]
～患者・家族の揺れ動く気持ちにどう寄り添い、かかわるべきなのか
- がん患者・家族にかかわる倫理的ジレンマへの対応[冬(1月)号]
- 非がん疾患患者への早期からの緩和ケアと意思決定支援[春(4月)号]

あなたのキャリアを
アップさせる看護の
最新情報を

Twitter #日総研



日総研 **接遇大賞** 優れたサービス
取り組みを表彰

応募は9月30日まで。発表は11月。

取り組み事例の紹介記事はこちら

[接遇大賞](#) [検索](#)

お問合せ

TEL: 0120-054977

URL: www.nissoken.com

日総研

[検索](#)